

第3回 山科区基本計画策定委員会 摘録

- 1 日 時 平成21年12月21日（月）午後3時30分～午後5時19分
- 2 場 所 山科区役所 2階 大会議室
- 3 出席者 幸田副座長、板倉委員、市川委員、梅本委員、太田委員、岡久委員、奥田委員、川嶋委員、河村委員、木村委員、小山委員（代理出席）、佐治委員、澤田委員、朱委員、高山委員、竹之内委員、渡名喜委員、羽立委員、松本委員、森委員、山口好委員、山口幸秀委員
【グループワークに参画した行政職員】
水野山科消防署長、安藤山科まち美化事務所長、澤井東部農業指導所長、寺門東部土木事務所工事係長、桐山東部文化会館館長、大場山科青少年活動センター所長
<山科区役所>藤川副区長、田中副区長、山田副区長、村上副区長、若井総務課主任、大澤まちづくり推進課主任、石川市民窓口課係員、土堅市民税課管理係長、渡邊固定資産税課係員、進藤納税課係員、細見福祉介護課介護保険係長、田辺支援課係員、大江保護課係員、黒田保険年金課主任、梅田健康づくり推進課係員、竹浪衛生課係員
- 4 内 容 ○ 議事①：グループ討議の実施について
○ 議事②：グループ討議
○ 議事③：各グループの発表
○ 議事④：まとめ
- 5 説 明（議事①）
○ グループワークのテーマ、グループワークにおいて提案する10年後に向かう取組内容、グループワーク分担表、「こんな山科になつたらいいなあ」若者の山科へのメッセージについて、事務局から説明した。
- 6 グループ討議（議事②）
○ グループごとに意見交換を行った。
- 7 各グループの発表（議事③）
(1) 環境について
○ 10年後に中心となる現在の小学生、中学生への啓発活動・環境教育をベースとして、今からできる環境活動を進めていきたい。
○ 温暖化対策として、10年後には、デンマーク等で取り組まれている自転車貸出しのシステムであるシティバイクを実施する、という意見があった。
○ 2R（リデュース（発生抑制）、リユース（再使用））として、山科区フリーマーケットなどを行い、ごみの再利用やリサイクルを推進していきたい。
○ ごみの減量については、個人で取り組む内容と、区全体で取り組む内容に分類した。レジ袋を使用せず、マイバックを持参するなど今からでもできることを区民に意識してもらう必要がある。

- まちの美化については、山と川が山科の特徴であり、学区を超えた美化活動を行っていきたい。
- 不法投棄対策を進めることで、まちの美化につなげたい。

(2) まちの魅力・観光について

- 山科の魅力は、歴史と自然と伝統である。
- 二千年以上続く歴史を京都市内及び市外へ発信していきたい。
- 桜、紅葉、お寺、田んぼのあぜ道、川があることで生まれる魅力をもっとアピールしたい。
- 伝統としては、清水焼、扇子工芸、伝産仏具工芸等をお土産として活用したり、学校等での社会見学の場として伝統産業を取り上げる、という意見があった。
- 山科にはアーティストは多いが、発表の場が少なく、他地域で発表している現状があり、山科の中で発信できる場所の提供が必要である。
- 主要な駅を活用して山科のPRを行ったり、インターネットを活用して口コミや記事風ブログなど掲載しPRする、という意見があった。
- 山科に興味を持った方に、マップを配布したり、観光ツアーを開催して案内する。また、単にマップだけでなく、交通機関や車、自転車、徒歩など移動に関する情報提供も必要である。
- 交通に関しては、駐車場の整備、バスの充実が必要である。また、自転車を活用して、電動自転車、自転車のシェアリングの実施、更に歩いて回れるように、トレイルコースの発信や既存の資源とスタンプラリーとの組み合わせを考えていきたい。

(3) 交通・都市基盤について

- 山科は道路の狭い所が多いので、一方通行にするなど、工夫してはどうか、歩行者専用分離帯を作るなどして、山科全体を歩いて楽しいまちにする、という意見があった。
- 防災の面においても、道路が狭い場合の緊急車両の通行が課題である。対応として、隣近所の人間関係を築くなど、緊急時の心掛けが必要である。
- 駅前周辺のまちづくりについて、パークアンドライドの充実など、いくつかの提案があった。
- 地下鉄ができる、交通が不便になっている地域がある。循環バスを走らせるとも考えられるが、今後財源の確保が課題である。
- 山科の10年後の計画として個性のあるまちづくりを目指したい。
- 子どもが安心して学べる環境を整え、子どもも大人も一緒に自分たちのまちを作っていくたい。

(4) 福祉・子育て支援について

- 子育て、高齢者、障害児者のことなど、様々な取組が出された。
- 住みやすいまちづくりとして、人と人とが信頼関係を持ってつながっていることがベースになる。
- 施設的、制度的な面において行政の配慮が必要であり、人と人がつながっていくための仕組みも必要である。子どもからお年寄りまでいろいろな人が出会う場所づくりなどが必要である。

- いろいろなイベントが行われているが、当日限りになってしまう。そのイベントがきっかけとなって出会った人たちが何らかの行動を起こしていくようなプログラムと連携していくことが必要なのではないか、という意見があった。

(5) 地域のつながりについて

- 自治会への入会、自治会活動への参加が少なく、地域のつながりが弱い状況で、そのつながりを持つにはどうしたらよいかが課題である。
- 目標は、いろいろな世代が協力して暮らすこと、一緒に何かができるることであり、基盤としてあいさつが大事だと考える。3年かかって、あいさつができる仲になったケースもあり、あきらめないことが大事である。
- マンション内の住民同士のつながりや、小学校区を中心とした活動など、自治会のみに限らず、今ある自治の仕組みを使って集まれる場、いろいろなことに触れられる場を増やしていく。また、自然に触れられる場所、ペットの散歩ができる場所を活用して、まちの美化、安心・安全に関する活動を進めてはどうか、という意見があった。
- ボランティア希望者による取組を多く作り、ボランティア活動の区内の拠点の確立をしたらどうか。また、活動の内容として、年配の方を囲んで昔遊び、地域の宝探しなどの様々なイベントを行ってはどうか。
- 山科区は転入者が多いこともあり、転入者を受けとめることも大切である。4年間しか住まない大学生に対して山科を好きになってもらう取組が必要である。
- 新しいつながりを作るため、インターネットを媒体とした趣味のサークル活動等に取り組んではどうか、という意見があった。

8 まとめ（議事④） 森委員

- 山科には魅力として伸ばしていく資源が多くあり、それを誰がどうやって行うかが課題である。理想は、地域の人が信頼関係のもと、助け合い、生きていくこと、山科を良くしていくことであるが、理想に辿り着くためにまずできることは何か、立ち止まって考える必要がある。
- 地域のつながりの面では、これまで、自治連の方によるいろいろな取組が行われてきたにも関わらず、思わしい結果が得られなかつたとのことであるが、それでも山科には新しい人が入って来るのも現状である。地域住民の新陳代謝があると言える。全国には、新しい住民が全く入って来なくて、努力しようにもできない地域がある一方で、山科にとって、人が入れ替わることについて「まずは顔見知りの関係から」といった付き合いを大切にし、前向きに捉える発想の転換が必要である。そうしなければ、今後の10年は、より人間関係が厳しくなるだろう。
- 観光・まちの魅力の面においても、イベントの実施は確かに一過性のものであり、継続していくことは難しいが、全く地域に関わっていない人にどうやって情報を提供していくのかという点を、行政の役割である中間支援も含めて考えていく必要がある。まず、できることを考えて、10年後を目指していけたら良い。